

第2回 アドバイザー意見聴取

日時：2021年10月18(月)・25(月)・26日(火)

場所：松本市役所4F第二応接室

出席アドバイザー：倉田 直道先生、久保田 尚先生、山下 裕子先生

アドバイザーの意見要旨

1 エリア全体

- ・松本城周辺を回遊するようなイメージで誘導するような仕掛けが必要
- ・重点エリア間をどう結ぶのかの検討が必要
- ・ハード資源として湧水も大事な要素
- ・パブリックスペースは、観光客などの外から訪れた人が市民や民間事業者などのまちとの接点を持つことができる場所、また、両者をチューニングする場所として整備していくことが松本というまちでは望ましい。
- ・自立は松本市の特徴ではあるものの共生はしていない。共生が生まれるような作業や活動、運動が起きる舞台としてパブリックスペースを設えていくことが重要である。
- ・コンテンツだけでなく、定期的な発表の場をどう設えるかが重要である。

2 交通

- ・自動車交通の速度抑制とサインを用いた観光動線の明確化は市民が安全にかつ安心して暮らすためには必須事項である。特に開智小学校・旧開智学校周辺の通過交通の解消には取り組む必要がある。

3 松本城二の丸周辺

- ・本庁舎側敷地に建てるのが仮に民間施設であったとしても、市民が集まることのできる、憩えるような空間になるイメージが望ましい。屋外、屋内を一体的に広場と捉える事ができる場所のポテンシャルがある。
- ・現本庁舎の西側道路の歩行者専用化が唐突にならないよう、大名町通りからのつながりを考える必要がある。歩行者専用化の必然性をきちんと示さなければいけない。

4 旧開智学校・中央図書館周辺

- ・旧開智から松本城公園までの動線デザインは重要課題
- ・観光客だけでなく、市民の居場所としての文教地区を目指すべき
- ・図書館は市民の居場所としてあり方を検討すべき
- ・徒歩アクセスの選択肢が複数あることがポテンシャル

5 市庁舎

- ・「市民とともに」をどう具現化していくかが焦点となる
- ・庁舎を含め、公共施設を建設する場合は特に、立地を踏まえた評価基準を定めた提案型のプロポーザルを実施し、クオリティコントロールすること

6 柵形跡広場・女鳥羽川周辺

- ・クラフトに力をいれていくのはポテンシャルがあると思う。

7 大名町通り

- ・大名町通りの整備については、最初の段階、その後の段階というような整備ステップとして明示する。
- ・ボラードの設け方、舗装デザインの仕方などを工夫することで通過交通を抑制する効果も見込むことができる。大きな課題は交通管理者である警察との協議

8 外堀大通り

- ・外堀大通りの暫定活用は「ほこみち制度」を利用する方法も考えられるのではないかな。

9 推進組織について

- ・町会や推進協議会などよりも大きい枠での連合体の設立が望ましい。

10 庁内プロジェクトチーム

- ・中心市街地でのライフスタイルの発信を移住政策的に行っていくべきである。
- ・安心安全に歩くことができ、楽しみながら暮らすことのできる環境を目指す機運を庁内でつくっていくことが望ましい。